

外科

【外科の特色】

消化器病センターの外科部門、ヘルニア治療部門、腹部外傷治療部門としての3つの特徴を持つ。消化器病センターの構成部門の一つとして、造影検査、内視鏡検査、超音波検査などを消化器科とともにに行い、カンファレンスを通じて治療方針を決定している。

ヘルニア治療は年間計150例近くの症例数を持ち、腹部外傷は放射線科とともに interventional radiology を用いた治療を積極的に行っている。

<研修目標>

1 一般研修目標 (GIO: General Instructional Objective)

将来の専門性に関わらず、地域医療診療圏で発生する外科ニーズを経験理解し、合わせて医師としての人格を醸成する。まず、基本的に外科疾患における病気を発見、指摘できることを目標とする。さらに実際の検査、手術、術前術後管理、合併症の治療を経験し、より幅広い外科的知識、手技診療能力を研修する。

2 行動目標 (SBOs: Specific Behavior Objectives)

- (1) 患者および家族に対する接遇の基本を身につける。
- (2) 医療行為に関する診療録を作成することができる。
- (3) チーム医療において、他のメンバーと協調した医療行為ができる。
- (4) 初期治療と救急蘇生の能力を見につける入院患者の受け持ち医として外科学における基本的な診療手技、検査の手順、方法、術前診断法を習得し、各種の病体を把握する。
- (5) 受け持ち患者の手術に参加し、止血や縫合などの基本的な手術技術、呼吸や循環、栄養、水分バランスなどの術前後の管理、創傷処置などを研修する。
- (6) 合併症などの特殊な病体を有する患者の術前後の管理、手術や特殊な治療法など、幅広い外科的知識や手技、診療能力を研修する。

<研修方略>

2か月間の研修を行う。

【NBO一方略】

1 適切な術前評価を行うことができる。

- 1-a 適切な医療面接・基本的な身体診察ができる。
- 1-b 術前一般検査：採血、尿検査、心電図、呼吸機能などの結果を評価できる。
- 1-c 特殊検査：消化管造影、内視鏡、CTなどの結果を評価できる。
- 1-d カンファレンスで診断と治療方針について説明できる。

講義	実地	カンファ	模擬演習
	○		
	○		
○	○		
		○	

- 2 手術で助手としての役割をはたせる。
 - 2-a 助手の役割を理解し、行動できる。
 - 2-b 皮膚縫合、筋膜縫合 ができる。
 - 2-c カンファレンスで参加した手術について説明できる。
- 3 適切な術後管理ができる
 - 3-a 術後合併症について説明できる。
 - 3-b 適切な医療面接・基本的な身体診察ができる。
 - 3-c ベッドサイドで超音波検査ができる。
 - 3-d 必要な検査の指示と結果の評価ができる。
 - 3-e 上医に報告し、方針について相談することができる。
 - 3-f カンファレンスで術後経過の説明ができる。
- 4 以下の外科的手技が行える
 - 4-a 局所浸潤麻酔ができる。
 - 4-b 切開排膿ができる。
 - 4-c 胸腔穿刺・ドレナージができる。
 - 4-d 腹腔穿刺・ドレナージができる。
- 5 終末期医療について理解し、実践できる。
 - 5-a ベストサポータティブケアについて説明できる
 - 5-b 告知後の患者・家族への適切な対応ができる。
 - 5-c 癌性疼痛の治療ができる。
- 6 腹部救急疾患・腹部外傷についての診断・専門医へのコンサルトができる
- 7 以下の代表的疾患について、可能な限り期間中に経験し、その診断・治療方針について説明することができる

	○		
	○		○
		○	
○			
	○		
	○		
	○		
		○	
	○		○
	○		○
	○		○
○			
○	○		
○	○		
		○	
○	○	○	

【方略まとめ】

	行動目標	方法	場所	担当者
①	1-c, 3-a, 5, 7	講義	カンファレンス室	篠藤、岡崎、佐藤
②	1~7	実地診療	病棟、その他	各指導医
③	1-d, 2-c, 3-f, 7	カンファレンス	カンファレンス室	全スタッフ
④	2-b, 3-c, 4	模擬演習	研修室、その他	篠藤、岡崎、佐藤

【週間スケジュール】

	8：15	9：00～	13：00～	18：00～
月曜日	カンファレンス	超音波検査	手術	読影
火曜日	カンファレンス	上部内視鏡検査	手術	
水曜日	カンファレンス	回診	手術	術前カンファレンス
木曜日	カンファレンス	レントゲン検査	手術	術後カンファレンス
金曜日	カンファレンス	手術	手術	

<研修計画責任者および指導医>

研修責任者： 外 科 部 長 篠藤 浩一
消化器外科 部 長 岡崎 靖史

研修指導医 外 科 副部長 佐藤 公太
外 科 医 師 玉地 智英
外 科 医 師 大塚 亮太

<評価>

- 1 研修医は別に定める経験目標に従って、自己の研修内容を記録し、指導医のチェックを受ける。また、手術および処置の手技診療能力の評価を指導医に受ける
- 2 チェックリストを用いて、研修医と指導医が達成状況を評価する。
- 3 指導医の評価もあわせ、研修責任者が2か月間の総合評価を、評定尺度（5段階評定）により行う。また、研修医による研修プログラムの評価も同様に行い、その結果は指導医、診療科へフィードバックされる。